

I 令和2年度釜石市地域包括支援センター事業実施報告

1 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）

(1) 介護予防・生活支援サービス事業

事業名	事業内容・実績・評価
介護予防ケアマネジメント事業	<p>・要支援1・2の方で「訪問型サービス」（ヘルパー）と「通所型サービス」（デイサービス）のみを利用する方に対して、介護予防ケアマネジメント業務を行った。</p> <p>→「訪問型サービス」と「通所型サービス」以外に、福祉用具貸与など他のサービスもあわせて利用する場合は、介護保険事業会計では「介護予防支援事業」（13 ページ記載）として、別事業で区分される。</p> <p>・高齢者の「自立支援」と「生活の質の向上」を目的とし、対象者の心身の状況等に応じて必要なサービスを調整するなど、介護予防に向けたケアプランを作成した。</p> <p>○令和2年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアプラン作成件数 2,916 件（年） ・月平均作成件数 243 件
	<p>・令和3年3月末</p> <p>人口：31,840 人</p> <p>要支援者数</p> <p>要支援1：424 人</p> <p>要支援2：259 人</p> <p>計：683 人</p> <p>サービス利用者：438 人</p> <p>高齢者人口</p> <p>12,721 人</p> <p>（R2.3 末 12,895 人）</p> <p>高齢化率</p> <p>40.0%</p> <p>（R2.3 末 39.5%）</p>

(2) 一般介護予防事業

※「一般介護予防事業」は、全ての高齢者を対象に行う介護予防の取り組み

事業名	事業内容・実績・評価
介護予防普及啓発事業 ・口腔機能向上事業 「歯つらつ健康教室」	<p>・加齢等による口腔機能の低下を予防するため「歯つらつ健口教室」を開催し、かみかみ 100 歳体操実技指導や嚥下機能等に関するアンケート実施及び歯科講話等を行った。</p> <p>○令和2年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託先：岩手県歯科衛生士会釜石支部 ・対象：いきいき 100 歳体操実施団体（12 団体）に対して、1 団体あたり 1 回程度実施 ・内容：アンケート・講話・体操指導・舌ブラシを配布し清掃方法を指導・個別歯科相談（希望者のみ） ・実施回数 12 回 延参加者数 145 人 <p>※教室実施 3 か月後に予定していた事後評価アンケートは、新型コロナウイルス感染予防のため冬季～春に活動自粛する団体が多く実施できなかった</p>
	<p>・嚥下機能等を評価するアンケートを参加者全員に実施し、むせ症状有が 3 割を超えるなど、機能低下者が多いことが分かった。改善するための方法を講話や体操指導により伝えることができた。</p> <p>・かみかみ 100 歳体操は DVD を見ながら行う口腔体操であり、3 ヶ月以上継続実施後に事後アンケートで評価する予定であったが、アンケートを配布できず、評価ができなかった。</p>

<p>介護予防普及啓発事業 ・認知症予防教室</p>	<p>・認知症に対する不安の解消や認知症予防に関する正しい知識の普及・啓発を図ることを目的に「認知症予防教室」を「もの忘れ相談会」と合同で開催した。</p> <p>○令和2年度実施状況</p> <p>・実施時期：令和2年9月～令和2年11月</p> <p>・実施回数 9回、参加者数 70人</p> <p>※感染予防のため、参加予約制として実施した。</p>	<p>・町内会や自主活動団体を対象にもの忘れ相談会と合同で教室を開催した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防等のため、目標数150人は達成できなかった。</p> <p>・男性参加者が5%（4人）と少なかった。</p>
<p>介護予防普及啓発事業 ・栄養改善教室</p>	<p>・フレイル（虚弱）予防のために、低栄養を防ぎ、バランスのとれた食生活を継続するための教室を開催した。内容は、食生活アンケートを活用した管理栄養士による講話等。</p> <p>○令和2年度実施状況</p> <p>・いきいき100歳体操実施団体（2団体）に対して実施。</p> <p>・内容：体重測定、10食品群アンケート、管理栄養士講話</p> <p>・実施回数2回 参加者数 23人</p>	<p>・健康推進課管理栄養士の協力を得て開催した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防の観点から実施しない団体があり、参加目標数150人には届かなかった。</p>
<p>介護予防普及啓発事業 ・いきいき100歳体操普及に向けた取り組み</p>	<p>・介護予防と生きがい、住民主体の「通いの場」を推進するツールの1つとして、100歳体操を普及。</p> <p>・住民が主体的に事業を実施できるよう段階に応じて、「動機付け支援」・「導入支援」・「継続支援」を行った。</p> <p>・「動機付け支援」：希望する住民に対して介護予防の必要性と住民主体の取り組みについて説明し、100歳体操の「体験会」を実施した。（2団体）</p> <p>・「導入支援」：希望する団体に、開催場所や必要物品、運営体制の相談、体力測定などを行い、住民主体の介護予防活動の支援を行った。（初回の体力測定2回、評価の体力測定1回開催）</p> <p>・「継続支援」：新型コロナウイルス感染防止のため、「リーダー交流会及び全体交流会」は中止した。</p> <p>・リハビリ専門職、管理栄養士、歯科衛生士等と連携し、フレイル及び新型コロナウイルス感染予防のリーフレットを作成し、活動団体参加者全員及び公民館利用者等に配布した。また、三陸ブロードネット及び健康推進課と協力し、フレイル予防等の番組を制作し放送した。</p> <p>○令和2年度事業実施状況</p> <p>・動機づけ支援 開催回数2回 参加者数15人</p>	<p>・4月当初に、新型コロナウイルス感染予防のため、全団体に対して活動自粛を依頼した。</p> <p>・5月には自粛解除となり、6月から活動再開する団体が増え始め、令和3年3月末現在で8団体が休止し、35団体が活動中。（全団体数：43団体）</p> <p>・今年度の新規活動団体は2団体で、目標の45団体には到達しなかった。</p> <p>・令和3年度もコロナウイルス感染予防に努めながら事業展開していく。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・導入支援 開催回数2回 参加者数18人 ・継続支援 (令和3年3月末現在の自主活動団体数 43団体) : 交流会等は中止 	
<p>介護予防普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・介護保険説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳になり介護保険証が交付される方等を対象に、介護保険制度や介護予防について理解を深めるための説明会を開催した。(新型コロナウイルス感染予防のため予約制で実施) ・対象者に日程を案内するとともに、市広報にも掲載し希望者が参加できるように配慮した。 <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数3回 参加者数14人 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から開催している。 ・新型コロナウイルス感染予防に努めて開催したが、予約が入らない日があり参加者数が元年より減少した。 <p>R1年度：7回、60人 H30年度：7回、28人</p>
<p>介護予防普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもり等予防事業(ふれあい教室) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家に閉じこもりがちな高齢者等を対象に市内の集会所等で、音楽・手芸・ニュースポーツや、健康に関する講話等、「ふれあい教室」を開催した。 <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催会場15会場 開会回数127回 延参加人数1,186人 	<p>開催地区の掘り起し、及び長期支援団体の自主活動へのつながりが課題</p>
<p>地域介護予防活動支援事業(地域住民グループ支援事業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防等に資する活動を行なおうとする地域住民団体等に対し、活動費を助成した。 ・助成を受けた地域住民団体等は、サロン、お茶っこの会、カラオケ会など、介護予防活動に主体的に取り組むもの。 ・3年間の助成事業で1年目120,000円、2年目75,000円、3年目50,000円、4年目以降は自立(自主活動を促す。)を目指す。 <p>○令和2年度事業実施状況</p> <p>※実施団体2団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中妻地区サロン会(3年目) <p>開催回数7回(4~6月は新型コロナウイルス感染防止のため実施なし)</p> <p>実参加者数21人 延参加者数64人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平田いきいきサークル(2年目) <p>開催回数56回</p> <p>実参加者数92人 延参加者数1,038人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3団体の予算を確保していたが、利用は2団体。 ・他の制度や、100歳体操など地域活動との兼ね合いもあるが、当該制度を利用した活動について、地域団体の掘り起こしを各地区生活応援センターと連携して図っていく。

2 包括的支援事業

(1) 総合相談支援業務

事業名	事業内容・実績・評価	
総合相談業務	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士を中心とした専門職が、本人、家族、地域住民などからの様々な相談に応じ、制度に関する情報提供や関係先の紹介など、総合相談支援を行った。 ・専門的関与が必要と認められた場合は、必要とするサービスや制度の利用につなぎ、継続的にフォローするなど支援を行った。 ・相談窓口として、地域包括支援センター(各地区生活応援センター含む)のほか、市内7箇所在宅介護支援センターを設置している。 <p>○令和2年度相談実績：別添資料1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談延件数 4,257件 ・うち地域包括支援センター 3,624件 ・うちブランチ（在宅介護支援センター7箇所） 633件 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の急速な進展と人生100年時代を迎え、人口（世帯）に占める独居高齢者や高齢者のみ世帯、及び認知症高齢者の割合が増加している。 ・あわせて、身寄りのない高齢者や家族関係が疎遠な高齢者の対応が多く、緊急時等、家族に代わり、地域包括支援センターが対応している現状がある。 ・家族介護力の低下により、相談内容が多様化、複雑化している。 ・令和2年度は、独居世帯、認知症高齢者、身寄りのない高齢者、家族関係が希薄な高齢者の対応に加え、新型コロナウイルス感染症により、地元に戻ってくるのが困難な家族に代わっての対応が増加した。
高齢者現況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に住所を有する方で、要支援・要介護認定者を除く65歳以上の方すべてを対象に、「高齢者現況調査」（別添資料2：釜石市高齢者現況調査票）を実施した。 ・調査に未回答の75歳以上の方を対象に、戸別訪問による調査を実施した。 ・全ての回答結果を地域包括支援センターで管理しているシステムに取り込み、緊急時の対応や相談時に支援を行う上での基本情報として活用している。 ・当該調査により、「独居」で「交流がない」（孤立リスクが高い独居高齢者）と回答された方には、各地区生活応援センターで戸別訪問等により調査を行い、地域との関わりや「通い 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の「独居」で「交流がない」（孤立リスクが高い独居高齢者）の人数は148人と令和元年度に比べて46人（令和元年度102人）増加している。新型コロナウイルス感染症の影響で家族や地域との交流が減少したことが影響していると考えられる。 ・また、高齢者の「困りごと」は、「1位物忘れ、2位買い物、

	<p>の場」への参加の働きかけ、介護サービスの利用など、必要な支援を行っている（地域包括支援センターでデータを作成・送付→地区生活応援センターごとに台帳管理・訪問等実施、随時台帳の修正・追加）。</p> <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査件数 10,079 人 回収数 9,046 人 回収率 89.7% ・「独居」で「交流がない」と回答された方 148 人 	<p>3 位外出時の交通手段」であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当調査で抽出された課題等について、施策に結び付けられるよう、関係部署等と連携・情報共有を図っていく。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 権利擁護業務

事業名	事業内容・実績・評価	
高齢者虐待・消費生活被害の防止など	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士が中心となって高齢者虐待対応等、権利擁護に係る相談・支援を行った。 ・また、権利擁護に係る住民向け説明会を開催し、高齢者虐待の概要と対応に関する説明を行った。 <p>※成年後見制度の市長申立、普及啓発、成年被後見人等への報酬助成、及び成年後見センターとの連携等、成年後見制度に係る事業は「成年後見制度利用支援事業」として 12 ページに記載</p> <p>○令和2年度権利擁護に係る相談対応状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待、権利擁護に関する相談延件数 67 件（成年後見制度に係る相談を除く） ・虐待認定件数 5 件 <p>[研修会等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民向け権利擁護説明会 4 回開催 ・延参加者数 62 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待については、ケースに応じて、察署・ケアマネ・医療機関等の関係機関と連携及び情報共有を図り対応している。 ・権利擁護説明会の開催目標回数は 8 回であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で集会やサロン等を自粛していた期間があったため、4 回となった。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

※介護支援専門員（ケアマネジャー）のサポート・困難ケースの支援・資質向上・ネットワーク構築

事業名	事業内容・実績・評価	
包括的・継続的ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・主任介護支援専門員が中心となって、多職種の連携や、居宅介護支援事業所の介護支援専門員（ケアマネジャー）へのサポートを行った。 ・介護支援専門員が抱えている困難ケース等に対して随時相談を受け、助言や指導、側面的に支援するなど、個々のケースに応 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護支援センター及び居宅介護支援事業所との連絡会議（年 3 回）を開催し、情報提供・共有・意見交換を行う事により、居宅介

	<p>じサポートを行った。</p> <p>・介護支援専門員としての知識や技術などの実践力を向上するための研修会や、在宅介護支援センター及び居宅介護支援事業所との連絡会議（年3回の定例会）を開催し、あわせて関係制度に関する研修会等を開催した。</p> <p>○令和2年度研修会実施状況 別表1のとおり</p>	<p>護支援事業所との関係の構築が図られている。</p> <p>・介護支援専門員研修会の開催により、介護支援専門員の実践力が高められている。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------

別表1 研修会開催状況（包括的・継続的ケアマネジメント）

年月日	内容	講師等	会場	参加者数
① R2.11.27	<p>第1回介護支援専門員等研修会 「ささえる事例検討会」～その人を支え、援助者を支え、地域を支える</p> <p>※かまいしユニゾンとの共催</p>	<p>イーハートープ地域包括支援センター 社会福祉士 鈴木 智之 氏</p> <p>岩手県介護コミュニティ協会 理事（介護支援専門員） 藤原 陽介 氏</p> <p>事例提供 はまゆり在宅介護支援センター主任介護支援専門員 阿部 克巳 氏</p>	<p>釜石PIT Zoom</p>	<p>29人 うちZoom 10人</p>
② R2.12.17	<p>第2回介護支援専門員等研修会 障がいの理解について</p> <p>※大槌町、釜石広域介護支援専門員連絡協議会との共催</p>	<p>医療法人仁医会 地域活動支援センター釜石 施設長 高橋 大輝 氏</p>	<p>沿岸広域振興局 大会議室</p>	<p>30人</p>

(4) 地域ケア会議の充実

事業名	事業内容・実績・評価	
地域ケア個別会議の開催	<p>・地域ケア個別会議として、「個別事例の検討を通じた地域課題の抽出と地域力の向上、及びネットワークの構築」等を図る地域ケア個別会議（以下「課題抽出型」という。）と、「規定の訪問回数を超えるケアプランの検討」を行う地域ケア個別会議（以下「自立支援型」という。）を開催している。</p> <p>・当センターでは、「課題抽出型」を実施しており、「自立支援型」は高齢介護係と協力し実施している。</p> <p>・課題抽出型の構成メンバーは市職員のほか、民生委員、地域住民（町内会等団体の代表）、ケアマネジャー、弁護士、医療関係者（看護師・医療社会事業士等）、介護保険サービス事業関係者、生活支援コーディネーターなど、地域住民と多職種が集まり、会議のテーマにより参加者を選定（依頼）した。</p> <p>○令和2年度事業実績（課題抽出型）：別添資料3</p> <p>・生活応援センターごとに8回開催（各地区1回×8箇所）</p>	<p>・個別事例検討の積み重ねにより把握した地域課題を、地域や関係機関と情報共有し、解決に向け取り組んでいく。</p> <p>・特にも、地域包括ケア推進本部と地域課題を情報共有し、「地域包括ケア本部会議」や「地域ケア推進会議」に提案する（政策形成につなげる取組み）。</p>

(5) 認知症総合支援事業

事業名	事業内容・実績・評価	
「認知症初期集中支援チーム」による相談・支援	<p>・認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、平成29年度から「認知症初期集中支援チーム」を地域包括支援センター内に設置している。</p> <p>・「認知症初期集中支援チーム」の役割は、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築するもの。</p> <p>・具体的な支援内容：家庭を訪問し、生活状況を把握し、早い段階で医療機関を受診するなど、適切な医療や介護保険サービス、及び地域資源に結び付ける。</p> <p>・チーム構成員 認知症サポート医、保健師、介護福祉士1人=3人</p> <p>○令和2年度事業実施状況</p> <p>・訪問実人数 15人（男性4人、女性11人）（受診支援5人）</p> <p>・訪問延べ人数 71人</p> <p>・来所相談件数 9件</p> <p>・電話相談件数 54件</p> <p>・チーム員会議回数 0回</p>	<p>・「認知症初期集中支援チーム」とあわせて、「認知症地域支援推進員」を地域包括支援センター内に配置しており、認知症支援の強化を図っている。</p> <p>・今年度は、新規相談者の受診支援が比較的スムーズに運び、チーム員会議の開催は0件であった。</p> <p>・新規相談は6件。受診支援4人、要介護認定申請支援5人で、全員が医療あるいは介護保険につながった。</p>

<p>「もの忘れに関する相談会」の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民から要望が多かった「認知症予防講話」（認知症予防教室）を保健師が担当し、「もの忘れに関する相談会」と同時開催した。 ・相談会では、個別相談の他にパソコンを利用した「もの忘れチェック」を行い、高齢者の不安の解消や認知症に関する意識の啓発につなげた。 <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数9回 もの忘れチェック及び相談会参加者数41人 (再掲：個別相談者数2人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防のため予約制で実施した。 ・参加者の半数以上が「もの忘れチェック」を実施し、経過観察が必要と思われる人が3人いたが、応援センターで見守りをしている方であった。
<p>認知症カフェ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人や家族、地域の人が気軽に集い、認知症について理解を深める「地域の居場所」として「認知症カフェ」を開催した。 ・認知症の人やその家族が安心して過ごせる地域づくりを目指すもの。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、6月及び7月から開始し、地域の状況に合わせて、感染予防対策を徹底したうえで開催した。 <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともすカフェ（主催：介護老人福祉施設 三峯の杜） 開催回数9回 延参加者数179人 (再掲：認知症の人3人、家族3人、地域住民144人、その他29人) 内容：講話、交流ゲーム、季節の行事 等 ・あゆむカフェ（主催：認知症の人とあゆむ会） 開催回数1回 延参加者数6人（会員6人） 内容：フリートーク 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防のため中止したカフェもあったが、飲食を控え、内容を工夫して実施。 ・民生委員や関係機関等の協力もあり、参加者からも好評を得ている。

3 任意事業

※「任意事業」は、地域の実情に応じ、市町村独自の創意工夫で実施する事業

(1) 家族介護支援事業

事業名	事業内容・実績・評価																					
家族介護教室	<p>・高齢者を介護している家族等の介護に対する身体的及び精神的な負担を軽減するため、「介護方法」や「介護予防」、介護者の「健康づくり」について学ぶことのできる教室を開催した。</p> <p>・内容は、健康体操、レクレーション、介護技術演習、介護予防講話など。</p> <p>・令和2年度の開催は、下記の在宅介護支援センターに委託し実施した。</p> <p>○令和2年度実施状況</p> <table border="1" data-bbox="469 819 1174 1290"> <thead> <tr> <th>事業所名</th> <th>開催回数</th> <th>実参加人数</th> <th>延参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いきいき指定居宅介護支援センター</td> <td>1回</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>はまゆり在宅介護支援センター</td> <td>32回</td> <td>74人</td> <td>329人</td> </tr> <tr> <td>仙人の里在宅介護支援センター</td> <td>7回</td> <td>30人</td> <td>105人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>40回</td> <td>110人</td> <td>440人</td> </tr> </tbody> </table>	事業所名	開催回数	実参加人数	延参加人数	いきいき指定居宅介護支援センター	1回	6人	6人	はまゆり在宅介護支援センター	32回	74人	329人	仙人の里在宅介護支援センター	7回	30人	105人	計	40回	110人	440人	<p>・新型コロナウイルス感染症の関係で、予定していた教室を開催できなかった地区があった。</p> <p>・今後も家族介護教室が実施可能な在宅介護支援センターや居宅介護支援事業所に委託し、事業を進めていく。</p>
事業所名	開催回数	実参加人数	延参加人数																			
いきいき指定居宅介護支援センター	1回	6人	6人																			
はまゆり在宅介護支援センター	32回	74人	329人																			
仙人の里在宅介護支援センター	7回	30人	105人																			
計	40回	110人	440人																			

<p>認知症高齢者家族介護支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 9 月 18 日に設立し、活動している家族会「認知症の人とあゆむ会」の運営を、はまゆり在宅介護支援センターに委託している。 ・「認知症の人とあゆむ会」では、認知症の高齢者を介護する家族が、ひとりで悩みを抱え込まないように、同じ経験を持つ会員が集いの場に参加して、悩みを傾聴し合い、互いに支え合う関係づくりに取り組んでいる。 ・感染予防のため、講演会及び施設見学会は実施しなかった。 <p>○令和 2 年度事業実施状況</p> <p>「認知症の人とあゆむ会」の主な活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つどい定例会の開催 2 回 延べ参加者数 19 人 ・あゆむカフェ（認知症カフェ）の開催状況等は別記（8 ページ）のとおり ・会 員 数 正会員 30 人、賛助団体 19 団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防のため、活動を自粛することが多かった。 ・会員のモチベーション維持や家族会の普及啓発を図る必要がある。
-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 認知症高齢者見守り事業

事業名	事業内容・実績・評価	
<p>認知症高齢者徘徊 SOS ネットワーク事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症高齢者徘徊 SOS ネットワーク事業を実施している。 ・この事業は、徘徊する可能性のある高齢者を事前に登録していただき、情報を警察と共有、徘徊事故が発生した場合、関係機関（SOS ネット協力機関等）との連携により早期発見につなげるもの。 ・平成 27 年度から、市町村名と登録番号が記載された「徘徊者早期発見ステッカー」を作成し、登録者へ配布している。 （ステッカーを履物などに貼り付けておくことにより、保護された場合、登録番号を確認し身元を迅速に特定できるようにするもの） ・岩手県警で設置している「びかぼメール」(※) について、SOS ネット協力機関及び居宅介護支援事業所に周知し、協力を促している。 <p>※びかぼメール：「びかぼメール」は、岩手県警から安心安全情報を提供するネットワーク。「行方不明者手配情報」、「不審者情報」、「特殊詐欺発生情報」等を配信する。</p> <p>○令和 2 年度登録者数 (R3. 3. 31 現在) 68 人 (再：新規登録者 14 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者が行方不明となり、防災無線で検索した件数は 0 件であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、制度の普及啓発に努めている。

(3) 認知症サポーターの養成

事業名	事業内容・実績・評価	
認知症サポーター養成講座の開催	<p>・地域等の認知症への理解や対応力向上を目指して、地域包括支援センターが事務局となり、年間のサポーター養成目標数を 600 人として講座を開催。</p> <p>・小中学生を対象にした講座（「孫世代のための認知症講座」）も開催している。</p> <p>○令和 2 年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域開催回数 4 回 参加者数 89 人 ・小中学校開催 6 回 参加者数 201 人 <p>（計：開催回数 10 回 参加者数 290 人 目標未達成）</p> <p>・生命保険会社や銀行等から依頼があり、見守り等の連携協定につながった事例もあった。</p>	<p>・小中学生を対象にした講座は、親世代への波及効果を期待し、学校への周知を強化しながら開催していく。</p> <p>・地域開催については、感染予防に配慮し実施することができた。</p>
認知症サポーター・ステップアップ講座等の開催	<p>・認知症サポーターを対象としたステップアップ講座として、認知症の知識や理解を深めながら、地域の中で認知症の人を見守り支える仕組みをつくることを目的とした講座を開催した。（モデル地域として鶴住居地域で実施した。）</p> <p>○令和 2 年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：鶴住居地区生活応援センター管内の認知症サポーター ・参加人数：実人数 35 人 延人数 76 人 ・内容：3 回コースの講座を開催 <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症サポート医による講演会 ② 認知症の人や家族を支える地域活動について （講義及びグループワーク） ③ 「認知症カフェ」体験参加 ・講座終了後に、「チーム鶴住居缶バッチ」を参加記念品として贈呈した。 ・参加者からの要望で、フォローアップ講座を 1 回追加開催した。 （参加者 21 人）内容は、県内活動事例（スローショッピング）の紹介とグループワーク。次年度以降も継続して開催してほしいとの要望があった。 	<p>・初めての開催であったが、参加希望者が 30 名定員を超える状況。</p> <p>・GWや参加者アンケート結果からは、講座の継続希望と地域ボランティアへの関心の高さが伺えた。</p> <p>・チーム結成（組織化）に向けた講座等の開催を検討していきたい。</p>

(4) 成年後見制度利用支援事業

(成年後見制度の市長申立、成年後見制度の普及啓発、成年被後見人等への報酬助成、成年後見センターとの連携等)

事業名	事業内容・実績・評価	
<p>成年後見制度利用支援事業</p>	<p>・認知症高齢者等、判断能力が不十分な方を法律的に支える制度である「成年後見制度」について普及啓発を図るとともに、相談者への制度の説明や、申し立てに係る書類の作成支援を行った。</p> <p>・当市、遠野市、大槌町の2市1町が連携し設置した「釜石・遠野地域成年後見センター（釜石市社会福祉協議会に委託）」が中心となり、令和2年9月から10月にかけて釜石・遠野・大槌地区市民後見人養成講座を開催した。</p> <p>・市民後見人養成講座受講者19人全員が修了、うち14人（当市8人）が市民後見人候補者として名簿登録している。</p> <p>・名簿登載者の中から、家庭裁判所と連携し必要に応じて市民後見人受任の調整を行っていく。</p> <p>・当成年後見センターとは昨年度に引き続き、定期的にモニタリング会議を実施しているほか、成年後見制度に関する相談支援や情報共有、普及啓発活動など連携を図っている。</p> <p>※成年後見センターは、成年後見制度の利用促進と、円滑に制度を利用できる体制づくりを進める中核機関（4つの主な機能；広報機能、相談機能、成年後見制度の利用促進機能、後見人支援機能）</p> <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度に関する相談 17件 ・成年後見制度市長申立て件数 0件 ・成年後見制度利用支援事業助成金申請（決定）件数 0件 ・成年後見センターとのモニタリング会議開催回数 14回 <p>※成年後見制度は判断能力の状態によって、「後見（こうけん）」「保佐（ほさ）」「補助（ほじょ）」の3類型に分類される。</p> <p>後見：常に判断能力を欠いている方が対象 (判断能力無し：「つねに」)</p> <p>保佐：判断能力が著しく不十分な方が対象 (判断能力無し：「よく」)</p> <p>補助：判断能力が不十分な方が対象 (判断能力無し：「たまに」)</p>	<p>・市民後見人とは、弁護士、司法書士等の専門職後見人や親族後見人以外の第3者後見人で、厚生労働省が定めるカリキュラムを修了した身近な住民が後見活動を担うというもの。</p>

4 介護予防支援事業

事業名	事業内容・実績・評価	
介護予防支援事業	<p>・介護保険の要支援1、2と認定された方（訪問型サービス及び通所型サービスのみを利用している方「介護予防ケアマネジメント事業」対象者を除く）に対して、介護予防支援業務を行った。</p> <p>○令和2年度事業実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアプラン作成件数 2,485 件（年） ・月平均作成件数 207 件 <p>※介護予防ケアマネジメント事業と合算した件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアプラン作成件数 5,401 件（年） ・月平均作成件数 450 件 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年3月末 人口：31,840 人 要支援者数 要支援1：424 人 要支援2：259 人 計：683 人 サービス利用者：438 人 高齢者人口 12,721 人 （R2.3 末 12,895 人） 高齢化率 40.0% （R2.3 末 39.5%）